

1 福祉科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

(1) 福祉科におけるコミュニケーション能力育成とキャリア教育

教科「福祉」における科目「社会福祉基礎」では、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てるために、人間関係の形成と、そのために必要な「コミュニケーション」能力の養成を重視しています。

社会における諸課題の解決や自分の進路選択・決定には、自分一人の力では限界があります。

他者との協力・協働によってそれが大きな力となり、社会の改善や進路の開拓につながっていくのです。そのために必要な他者との関係を構築するために、コミュニケーションの技法は欠かせません。

教科「福祉」では、科目「社会福祉基礎」以外に、「コミュニケーション技術」という専門科目があり、コミュニケーション技法の習得に特化した科目もあります。福祉の現場で求められる対人関係能力や対人支援能力の向上のために、コミュニケーションの技法は欠かすことのできない技術なのです。

(2) 福祉科における課題解決能力育成とキャリア教育

教科「福祉」における科目「介護総合演習」では、学習指導要領の科目の目標にもあるように、「課題解決の能力」を育てることを目標としています。

この科目は、介護実習（福祉施設での実習）の事前・事後指導が中心となるのですが、施設での実習では、様々な困難や課題に直面します。その際、冷静かつ論理的に考察して、直面する困難や課題の解決方法を見つけ出すための科目といってもよいでしょう。それは正に、生徒の進路における困難や課題の解決を目指すのと同様のものであると言えます。

その意味で、教科「福祉」に関する科目は、キャリア教育と密接に関わっていると言えます。

高等学校学習指導要領解説 福祉編《抜粋》

第1節 社会福祉基礎

第2 2 内容

(2) 人間関係とコミュニケーション

ア 人間関係の形成

人間関係の形成について、傾聴や受容、共感、援助者としての自己覚知や他者理解などを取り上げ、対人援助に必要な人間の理解や人間関係を構築するための技法について理解させる。

イ コミュニケーションの基礎

コミュニケーションの基礎について、言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションなどを取り上げ、コミュニケーションの持つ意義や役割、コミュニケーションの基礎的な技法について理解させる。

第6節 介護総合演習

第1 目標

介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2 高等学校における福祉科の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

高等学校の教科「福祉」は、人間関係形成能力やコミュニケーション能力、課題解決能力を高めるための知識と技術を総合的、体験的に習得し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てるための教科です。

ゆえに、福祉科の指導内容には、キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力として、上述した「人間関係形成・社会形成能力」、他者援助のために必要な「自己理解・自己管理能力」、これも先に述べた「課題対応（解決）能力」、福祉施設において必要な介護計画の作成などの「キャリアプランニング能力」も含まれます。

「基礎的・汎用的能力」育成に特に関連する福祉科の指導内容の例

能力／科目	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 科目「社会福祉基礎」で、人間関係づくりのためのグループエンカウンターを行い、人間関係づくりの基礎を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「社会福祉基礎」で、自己理解のための心理検査「エゴグラム」を行い、自分の性格パターンや特性を把握・理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「社会福祉基礎」で、日本における公的扶助、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉が抱える課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「社会福祉基礎」で、左記の内容で課題をどう解決したらよいかのプランをグループで考える。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 科目「社会福祉基礎」で、コミュニケーションの意義や役割、基礎的な技法を学ぶことで、人間関係形成・社会形成能力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「社会福祉基礎」で、ロールプレイング等を通して、自己覚知や他者理解の意義を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「介護福祉基礎」で、介護を必要とする人の抱える課題とその解決方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「介護福祉基礎」で、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援の意義と役割の理解を通して、将来の介護従事者として必要なことを学ぶ。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 科目「介護実習」において、施設職員や施設利用者との関わりを通して、人間関係形成・社会形成能力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「介護実習」、「介護総合演習」において、実習中や実習後の振り返りを行うことで、自己理解を深めるとともに、介護者としてのあるべき姿勢を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「介護実習」、「介護総合演習」において、介護実習中に遭遇した課題や、事例研究で行う演習を通して、課題対応（解決）能力を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「介護実習」、「介護総合演習」において、訪問介護実習を通して個々の利用者のキャリアの理解と介護計画の作成演習により、プランニング能力を習得する。

高等学校の教科「福祉」は、高齢者や障害者等の援助・支援を目的とする教科なので、3年間を通して各科目を有機的に関連付けながら学習することで、「基礎的・汎用的能力」が習得できるようになっています。特に科目「社会福祉基礎」と「介護総合演習」については、福祉に関する各学科においては必履修科目となっており、福祉の基礎・基本を学ぶ科目でもあります。

3 実践例

「社会福祉基礎」 (2) 人間関係とコミュニケーション

コミュニケーションの基礎

■ ねらい

対人関係形成のためのコミュニケーションの持つ意義や役割，コミュニケーションの基礎的な技法を習得し，介護の現場で利用者と適切な関係を形成・維持できるようになる。

■ 本実践とキャリア教育

本單元では，コミュニケーションの基礎的な技法を体験することでコミュニケーションの意義や役割を理解し，その基礎的な技法を習得することを目指します。

福祉関連施設における介護実習において，実習生に何が一番困ったかと尋ねると，ほとんどの生徒が「利用者とのコミュニケーション」と答えます。特に特別養護老人ホームにおける介護実習では，利用者のほとんどが認知症を患っており，中には言語的コミュニケーションが困難な利用者もいます。また，利用者に実際に介護等を行う際，それまでのコミュニケーションを通して利用者との間にどれだけ信頼関係が構築できているかが重要なポイントとなります。このように介護現場で欠かすことのできないコミュニケーションの意義や役割，基礎的な技法の習得によって，介護現場のみならず，日常生活においても他者との適切な人間関係形成に役立つことでしょう。

《全体構想》

主な学習活動	時数
コミュニケーションとは ・ コミュニケーションの定義，多様性，役割を理解する。	1
コミュニケーションの目的と方法 ・ コミュニケーションの目的と方法を学習し，介護福祉士としての対人援助の基礎を形成する。	2
コミュニケーションを促す環境 ・ コミュニケーションを促す環境・阻害する環境を学習し，生活支援への生かし方を考える。	2
演習 ・ 一定時間誰とも口をきかず，身振り手振りだけで事情を説明し，感じたことをメモにとる。 ・ 話し手・聞き手・観察者の3人1組になり，決められた時間内で決められたテーマについて話をし，どのような状況の時に話しやすいか，話しづらいかを体験する。	3



<特別活動（ホームルーム活動）>
(2) 適応と成長及び安全
コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立

更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

本單元を通じたキャリア教育の更なる充実に向けて，家庭科の「家庭総合」における「子どもの発達と保育・福祉」と関連させることが考えられます。高齢者や障害者との共生社会の実現に向けてコミュニケーションを通してどのような関わり方があるかをディスカッションしてみます。

《本時のねらい》

- 話し手・聞き手・観察者の3人1グループになり、話し手が話しやすい状況とは聞き手がどのような態度の時かを体験・認識することで、コミュニケーションの目的と方法を体験から理解する。

《展開》（7／8時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1 前時の学習を振り返る。	○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価 ○ 前時に行った演習「一定時間口をきかない」の内容を思い出し、言語的コミュニケーションの目的や意義を認識させる。
展開	2 本時の学習の説明。 3 移動・グループづくり。 4 聞き手に様々な条件設定（笑顔でうなずき・相づちあり、無表情、目をそらす）を課し、その時にわき起こる感情や気付きをワークシートに記入しながら役割を交替して、ロールプレイングを進めていく。	○ 3人1グループによる、コミュニケーション理解のための簡単なロールプレイングの目的とねらいを理解させる。 ○ 今回は出席番号順にグループを構成させる。 ◎ 話し手が話しやすい聞き手の態度とはどのようなものかを体験を通して実感させ、言語的コミュニケーションの意義や基本的な技法の原則について理解させる。 ◎☆ 言語的コミュニケーションの意義と技法の原則について理解し、よりよいコミュニケーションをとろうとする姿勢が見られるか。
まとめ	5 本時の学習を振り返り、言語的コミュニケーションの意義と原則を確認し、ワークシートを提出する。	◎☆ よりよい言語的コミュニケーションを通して、相手の意見を聴いたり自分の考えを伝えたりすることが、自分の役割を果たしつつ他者と協働して社会を形成する力につながることを理解したか。

《実践のポイント》

- 他者とのコミュニケーションの意義・役割を再認識しましょう。
今回のロールプレイングで学習したコミュニケーションの基礎・基本が、他者や社会との関わりの中で、また仕事をしていく上での基礎・基本となることを、よく認識しましょう。
- より実践的なロールプレイングを通して、人間関係や社会を形成する能力を習得しましょう。
今回実施したロールプレイングを、より実践的な場面（一般企業の職場、老人ホームや障害者支援施設等）を想定して実施することで、コミュニケーションを通して自分の置かれている状況を受け止め、自分の役割を認識し、状況を変えていくことにつながっていくこと、つまりは新しい社会の形成につながっていくことを実感してみてください。より良い人間関係や社会の構築は、良好なコミュニケーションを通しての他者との関わりから生まれるのです。

産業社会と人間

1 産業社会と人間を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

「産業社会と人間」は、総合学科の創設に伴い、総合学科の全ての生徒に原則として入学年次に履修させる科目として設けられたものであり、次のことを主なねらいとしています。

- 人間としての生き方の探求，特に自己の生き方の探求を通して，職業を選択し，決定する場合に必要な能力と態度を養うこと
- 将来の職業生活を営む上で必要な態度やコミュニケーションの能力を培うことや現実の産業社会やその中で自己の在り方生き方について認識させ，豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度を育成すること

平成11年の学習指導要領の改訂の際には、総合学科以外の学科においても、学校設定教科に関する科目として開設できるようになりました。以下は、高等学校学習指導要領総則（平成21年3月）に示された、「産業社会と人間」のうち、キャリア教育と関わりが深いと思われる部分を示したものです。

高等学校学習指導要領総則《抜粋》

学校においては、学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができる。この科目の目標、内容、単位数等を各学校において定めるに当たっては、産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。

- ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成
- イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察
- ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

「産業社会と人間」は、すべての学校において、学校設定教科に関する科目として設けることができ、学校の実態等に応じて目標、内容、単位数等を定めることができます。（総合学科での標準単位数は2～4単位を規定（総則第3款の3））また、「産業社会と人間」の学習内容は、知識として学ぶことと体験を通して学ぶこと、学んだことと自分との関わりを深く考察することなどから構成されているため、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連を深めて学習することができます。

「産業社会と人間」の指導は、ホームルーム担任を中心とした複数の教員によるティームティーチングで行われることが多く、学習内容によっては、専門的な知識を有する外部人材などを講師として活用している場面が見られます。このため、学習を通して多様な他者と関わる中で、自分の個性や興味・関心、職業理解や職業適性、人間としての在り方生き方、将来の進路などについて多面的に考察し、自分と社会とのつながりを認識することができます。

このように、「産業社会と人間」は、生徒のキャリア発達を促進する実践的な活動を多く包含していることから、職業的（進路）発達の段階が、「現実的探索・試行と社会的移行の準備の時期」とされる高等学校において、大変意義のある学習であり、正に、「授業としてのキャリア教育」を展開することができます。

2 高等学校における産業社会と人間の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

「産業社会と人間」は、ホームルームを単位とする集団のほかに、職業への興味・関心や卒業後の進路希望などによって、学年や学科等の枠を越えた集団などにおいて、協働で行う調査や発表、相互での評価などが多く設けられています。また、職業調査や職業人インタビューなど啓発的な体験が多いため、異なった年代の社会人などとの触れ合いも多くなります。

したがって、生徒は、この「産業社会と人間」を通じて集団の中での自分の役割を認識し、多様な他者との関わりの中で円滑な人間関係を築くことが必要となります。そして、自ら課題を発見し協力し合いながら問題解決や探究活動を行うことが求められます。これらは正に、総合的な学習の時間や特別活動のねらいと深く関わるものであり、「産業社会と人間」が「基礎的・汎用的能力」の育成に深く関わっていることを示唆しています。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する「産業社会と人間」の指導内容の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> 自分と他者との違いを認識し、互いに分かり合おうとする。 グループ学習等において、自分の役割を知り、協力することで円滑な人間関係を築く。 調査した結果をまとめ、共同して発表資料等を作成する。 ポスターセッションなどで互いの意見を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 心理検査（性格検査、進路適性検査など）を活用して、自分を客観的に見つめる。また、経年比較により自分の成長を認識する。 自己を肯定的に捉え将来に向けて主体的に行動する。 「職業人インタビュー」など啓発的な体験活動を通じて、職業の実際や自分の適性等を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人インタビューにおいて調査対象者とコンタクトを取り、調査の日程や内容等を調整する。 課題解決のための道筋を立て、多様な他者の協力を得て課題解決を図る。 職業調査等を通じて得た情報を、図やグラフなどにまとめる。 多くの危機の事例を参照し、話し合いなどによって危機管理能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の履修計画を作成し、自分の興味・関心や将来と結び付いた学習計画を立案する。 様々な産業の種類や内容、課題などについて理解し、そこでの生活の様子に目を向ける。 様々なキャリアの体験を最終的な進路決定につなげる。 キャリアプラン・ライフプランを作成し、発表会の実施や相互評価の工夫により、具体性を高める。

総合学科においては、「産業社会と人間」を全ての生徒に原則として入学年次に履修させるもの（総則第3款の3）とされていますが、その際、学年ごとの学習計画の立案や啓発的な体験の計画、キャリアプラン・ライフプランの作成など、高等学校3年間及び生涯を見通した学習内容となるように工夫することが必要です。

また、総合学科以外の学科で「産業社会と人間」を学習する場合は、総合的な学習の時間や特別活動との関連を深め、入学年次にとどまらず、複数年にわたって系統的に学習するように工夫することも有効な方策として考えられます。

3 実践例

《職業人インタビュー・第1学年》 体験から得られた情報を共有し、進路情報の確認や、在り方生き方や仕事を通じた社会参画について考察する

将来目標とする職業に就いている人、生き方や考え方に共感する人に学ぶ

■ ねらい

- 職業人インタビューは、生徒一人一人がこれからの進路を主体的かつ具体的に設計していく上で大切なことを、人生の先輩から直接学ぶ活動です。主なねらいは次のとおりです。
 - ・インタビューする職業人から、仕事に就くまでの過程、仕事をする上で必要な知識や技能、仕事を通して得られたやりがいや価値観（人生観、勤労観・職業観）など、小学校の職場見学や中学校での職場体験等では充分に知ることができなかったことを学ぶ。
 - ・職業人との関わりを通じて、職業に対する考え方、自己の在り方生き方、仕事を通じての社会参画などについて考察する。
 - ・その職業に必要な能力や適性などについて知り、今後の学習計画や進路選択に生かす。
 - ・体験後の発表会等を通じての情報の共有や他人の経験との比較、討論等を通じて、職業への理解を促進するとともに体験を内在化する。

■ 本実践とキャリア教育

職業的（進路）発達の段階が、「現実的探索・試行と社会的移行の準備の時期」にある高校においては、生徒自らが主体的に活動することでキャリア発達を促進することが必要です。これまで関わることがなかった職業に就いている人や、生き方や考え方などに共感する職業人を生徒自らが選び、調査を行うことで、職業への理解を深めるとともに、自分の職業能力や適性、今後の在り方などについて考察します。

そして、これまでの活動（職業見学や職場体験活動）と比較することで、自分の興味・関心の変化や成長や変容の度合いを認識し、今後の学習計画の立案や具体的な進路選択につなげていきます。この活動をきっかけとして、将来の職業を意識した学びや情報収集を心掛けるように促し、2年次の就業体験へとつなげていくことが大切です。

《全体構想》

教科等との関連	主な学習活動	時数		
〈国語〉 話すこと・聞くこと、書くこと、言葉遣いや文体 〈情報〉 情報の収集・整理、プレゼンテーション 〈公民〉 現在の経済社会の変容、自己実現と職業生活、社会参加	・ 本活動の意義を確認する	1	インタビューする職業人の選定や調査に関する家庭の協力 地域の企業や事業所、経済団体や職能団体等への協力依頼 発表会への参加依頼	
	・ インタビューする職業人を選定する、依頼文書の作成、質問項目の選定など	2		
	・ インタビュー内容や方法等について教師の指導を受ける	1		
	・ インタビューの実施に当たり、心構えやマナーなどについて外部講師の話を聞く	1		
	・ インタビューの実施（課外）、まとめ、礼状の作成など	1		
	・ ホームルームでの発表及び相互評価	4		
	・ 討論会の実施と相互評価表の活用（教師の支援による体験の内在化）	1		
	・ 保護者や事業所の方を招いての全体発表会の実施	2		



《本時のねらい》

- ・ ホームルームにおいて全員が発表し、相互評価や話し合いなどを通じて、体験を振り返る。
- ・ 職業人インタビューから得られた様々な体験と「基礎的・汎用的能力」との関連付けを図る。
- ・ 今後の学校生活を充実させ、社会的・職業的自立に向けた主体的な態度を育成する。

《展開》（7 / 13 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 ○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価
導入	1 司会進行役（生徒）からこれまでの活動の流れを聞く。 2 本時のねらいを確認する。	○ 一人一人の体験発表を聞き、記録をとりながら体験を共有するとともに、相互評価票に適正に評価するように意識付ける。
展開	3 1人3分以内で発表する。 ・ インタビューした職業に関する情報 ・ これまでのイメージとの相違 ・ 学校の学習内容との関連 ・ 成功例、失敗例、印象的な出来事 ・ 今後の抱負 など 4 発表が終われば1人につき2分の評価を行う。 ・ 定量的評価と定性的評価	○ 限られた時間で分かりやすい発表と適正な評価ができるようにする。 ◎ 体験から得られた新たな発見や自己の内面の変化等について考えさせる。 ☆ 本時のねらいに合った発表内容か、今後の学校生活への抱負などに言及された内容か、他者の発表を適正に評価できているか。
まとめ	5 これまでの発表を振り返る。 ・ 全体についての感想を記入する ・ 学習シートを記入する ・ 次時の討論会に向けた準備をする 6 教師の話聞く。	○ 発表会全体を振り返り、「基礎的・汎用的能力」との関連付けを図る。学習シートを活用する。 ◎☆ 発達の段階に応じた発表内容か、望ましい勤労観・職業観が育成されたか、自己の能力や適性に対する考察が行われたか。

《実践のポイント》

- ・ 体験が自分自身にとってどのような意味を持つのかを十分に考察させ、体験を意味付けることが大切です。
- ・ 体験を通して実感した自分自身の適性や長所・短所、将来に向けての可能性や不安などを教師によるキャリアカウンセリング等において個別に語る機会を設けることが必要です。
- ・ 本実践のポートフォリオを2年次の就業体験（インターンシップ）に関連付けることで、キャリア教育の連続性を保つことができます。

《実践上の留意点》

- ・ 一過性のイベントに終始しないように配慮し、指導計画に基づいて系統的な学びとなるよう配慮することが大切です。2, 3年次の科目選択や進路選択に関連するような取組が必要です。
- ・ 事前・事後指導により体験を通じて、自己の内面の変化等を考察させることが必要です。

《発展的な取組》

- ・ 体験のまとめ方や発表方法を工夫することで、言語活動の充実を図ることができます。
- ・ 報告集をデータベース化して、図書室等で閲覧できるように工夫すれば、貴重な進路資料になります。

総合的な学習の時間

1 総合的な学習の時間を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」、「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」ことを目指している総合的な学習の時間は、キャリア教育と特に深い関わりをもっています。『高等学校指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成21年12月）では、総合的な学習の時間における目標の趣旨に関する解説の中で次のように記されています。

高等学校学習指導要領《抜粋》

総合的な学習の時間の目標

総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることが大切である。「自己の在り方生き方を考えることができる」とは、以下の三つのことである。

一つには、人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。

二つには、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。

これらの二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の在り方生き方につなげて考えることが三つ目である。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、人間としての在り方を基底に、自分の人生や将来、職業について考え向上しようとしていくことである。

高等学校段階は、自分の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何かということについて思い悩む時期です。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国家や社会について強い関心をもち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもあります。それらを模索する中で、生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観、世界観ないし価値観など、自分なりの種々のものの見方や考え方を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていきます。このような生徒の発達の段階と深く関わって、『高等学校指導要領』の総合的な学習の時間の目標は、小・中学校では「自己の生き方」とあるところが、「自己の在り方生き方」となっています。

自然や社会との深いつながりや豊富な体験を契機に様々な問題と出会い、その解決に取り組む学習が、自己の在り方生き方をより深く考えていくこととつながります。特に高等学校の総合的な学習の時間では、人間としての在り方を基底に据えながら、自分の個性の伸長や自己実現などとの関連から、進学や就職などに関わる個人としての生き方や現代社会の諸問題に関わる社会の一員としての生き方などについて考えることが大切とされています。

「自己の在り方生き方」を追究する高等学校の総合的な学習の時間は、高等学校における学習活動の中で最も「キャリア教育」の根幹に関わっています。したがって、総合的な学習の時間を通じた「キャリア教育」の実践は、単なる職業体験や進学指導ではなく、個人としての在り方生き方や現代社会の諸課題に関わる社会の一員としての在り方生き方などについて考えることが大切です。

2 高等学校における総合的な学習の時間の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

総合的な学習の時間においては、総合的な学習の時間の目標を踏まえて各学校において目標や内容を定めることになっています。『高等学校学習指導要領』第3-(5)では、地域や学校の特色、生徒の特性等に応じて三つの学習活動が例示されています。

- ① 国際理解，情報，環境，福祉，健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動
- ② 生徒が興味・関心，進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化，総合化を図る学習活動
- ③ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動

また、育てようとする資質や能力及び態度については、第3-(4)で、「学習方法に関すること，自分自身に関すること，他者や社会との関わりに関することなどの視点を踏まえること」とされています。これらと、キャリア教育において身に付けさせたい基盤となる「基礎的・汎用的能力」の4つの具体的な能力との関連を見ると、例えば下記ようになります。

「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する 総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度の例

活動／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
学習方法に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 互いに意見を出し合い，見通しを確かめ合い，他者の意見を受け入れながら課題を探究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況を踏まえ適切な課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて情報を収集し整理・分析，帰納的・演繹的に考察して，論理的に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮説に基づいて計画を立案する。 学習の進め方を内省し，現在及び将来の生活に生かそうとする。
自分自身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し，改善に向けて日常的に実践する。 学ぶ意味や価値を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし，課題の解決に向けて計画的に着実に行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来について具体的に考え，夢や希望をもつ。 自らの人生観・世界観・価値観を形成する。
他者や社会との関わりに関すること	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れ，尊重し理解しようとする。 人間や国家，社会の在るべき姿について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表・討論の仕方やコミュニケーションの取り方を身に付ける。 互いを認め合い，協同して課題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会や自然の中に生きる一員として，何をすべきか，どのようにすべきかを考える。

※『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』第6章第3節より一部引用

総合的な学習の時間における三つの例示のような学習活動は、いずれも自己の生き方在り方と直接・間接に結び付いていきます。その意味で、創意工夫がなされた総合的な学習の時間は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎的な基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促す」キャリア教育につながる学習となります。常に学習活動がどのように生徒の在り方生き方と結び付くかを念頭において、学習計画を立てることが重要になります。

3 実践例

《第一学年》社会と自己の関わりについて主体的に探究する

「社会と自己の関わり」

■ ねらい

社会の在り方や社会と自己の関わり、自己の在り方、より良い生き方について主体的・創造的に探究する。

- 現代社会の課題や自分自身の課題を見付け、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
- 課題を解決するために、情報を収集・処理・分析をし、論理的に結論を導く力を身に付ける。
- 互いに意見を出し合い、他者の意見を受け入れながら、協同性を發揮して課題を解決する態度を養う。
- 課題について探究したことをわかりやすく表現する能力を育てる。

■ 本実践とキャリア教育

本実践では、まず、キャリア発達に必要な「学び方」を習得します。その中で課題対応能力を育成します。特に、仮説を立て計画を立案するプランニング能力を重視します。基本的にすべての学習活動はグループ単位で行い、人間関係・社会形成能力を養います。テーマは、身近な諸問題や未来を創造するものを取り扱いますが、その中で、自己の生活を見直し、自らの在り方生き方を考えていきます。本実践は、話し合いなどによって、進路適性や望ましい勤労観・職業観などについて考察することで、将来の社会的・職業的自立に向けた意欲や態度の育成につなげる実践です。

《全体構想》

主な学習活動（総時数 35 時間）	時数	
○ 身近な社会の諸課題の探究		〈国語総合〉 「話すこと・聞くこと」 〈現代社会〉 「私たちの生きる社会」 〈数学Ⅰ〉 「データの分析」 〈科学と生活〉 「人間生活の中の科学」 〈保健〉 「現代社会と健康」 〈家庭基礎〉 「人の人生と家族・家庭」 〈社会と情報〉 「情報の活用と表現」
・ KJ 法的手法を用いてブレインストーミングを行い、主体的・協同的に探究する。	5	
・ ディベートの手法を用いて、多面的に探究する。		
ディベートの準備（テーマ決定・調査）	4	
ディベートの実践	5	
・ ブレインストーミングやディベートによる学習を踏まえて「社会と自己の関係」レポート	2	
○ 未来社会の創造		
・ 未来を創造する同一のテーマに対して、2 グループがプランを提案し、コンペティションする。		
目的・方法のオリエンテーション・テーマ決定	4	
調査・プレゼンテーション準備	8	
コンペティション（プラン対決）	5	
・ コンペティションによる学習を踏まえて「未来社会と自己」レポート	2	

更なる充実のために—他教科における学習と関連付けた指導—

効果的なプレゼンテーションを実現するためには、〈国語総合〉の「話すこと・聞くこと」や〈社会と情報〉の「情報の活用と表現」で表現技能をしっかりと習得しておくことが大切です。家庭科各科目の「人の一生と家族・家庭」と関連付けると効果的です。

《本時のねらい》

身近な諸問題「田舎と都会、どちらが住みやすいか」について、ブレーストーミングにより自分たちの意見をまとめて発表する中で、社会と自己の関係を認識し、自己の在り方生き方を考える。

《展開》2 / 35 時間（身近な社会の諸課題についての探究）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1 本時のテーマ「都会と田舎、どちらが住みやすいか」の提示。 2 付箋紙を用いて意見を出し合い、自分たちの主張をまとめ、模造紙を用いて発表する学習方法の提示。 3 クラスを6グループ（1グループ6～7人）に分ける。各グループに1枚ずつ模造紙を配布。	○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価 ◎ 本時のテーマが、将来における自己の在り方生き方と深く関わることを伝える。 ○ 本時の活動の流れについて確認する。 ○ 多様な意見が出るようにグループは男女混合にする。
展開	4 模造紙にX-Y座標を書かせ、X軸に「都会」-「田舎」を取り、Y軸に「住みやすい」-「住みにくい」を取る。 5 「住みやすい」または「住みにくい」理由を付箋紙に記して、該当する象限に貼る。 4 それぞれの意見をグルーピングし、それぞれのカテゴリーごとにタイトルを付ける。 5 都会-田舎とどちらが住みやすいかをグループ内で討論し、結論を出す。 6 討論内容と結論を、付箋紙の貼られた模造紙を用いて発表する。	○ 第1象限には「田舎」の「住みやすい」点についての付箋紙を貼る、という形で意見を整理しやすくしておく。 ○ 多岐にわたる観点から、できるだけ多くの意見が出るように支援する。 ○ 具体的な意見をグルーピングし、タイトルを付けることによって概念化させる。 ○ 結論を論理的に説明できるように支援する。
まとめ	7 レポート「私は都会と田舎、どちらが住みやすいと考えるか」作成。 8 教員による総括。	○ 話し合いによって得られた成果が、今後の学校生活の充実に結び付くように配慮する。 ◎☆ 発達の段階に応じた望ましい勤労観・職業観をもち、自己の能力・適性を生かそうとする態度をとれるよう評価する。

《実践のポイント》

- ・ 自己の在り方生き方を考えさせながら、「学び方」を学ぶことができます。

テーマは、自己の在り方生き方につながるものが有効です。付箋紙を使うと意見が出やすくなります。意見のグルーピングや討論内容の発表により、具体事例の概念化、論理的構成・表現など課題対応能力を身に付け、協同作業により人間関係形成能力も育てます。

特別活動

1 特別活動を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

特別活動は、キャリア教育の中核的な実践の場です。これまでも自己の在り方生き方を考えさせてくれる進路指導に直接的に関わる機会として重要な役割を果たしてきました。次に示す特別活動及び各活動等の目標にも具体的に表れているように、特別活動は今後のキャリア教育実践の推進においてますます重要な役割を担うことになるでしょう。

高等学校学習指導要領《抜粋》

特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

ホームルーム活動の目標

ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

生徒会活動の目標

生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

学校行事の目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

このような特別活動を通して育てる態度は、キャリア教育によって育成する「基礎的・汎用的能力」つまり「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」と密接に関連するものです。このことから、特別活動は、キャリア教育の実践に直接的に関わると言えるでしょう。ここでは、その一例として、「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成21年12月）からホームルーム活動の「(3) 学業と進路」に関する解説の一部を引用します。

高等学校学習指導要領解説 特別活動編《抜粋》

- 生徒が将来直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、生徒一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることについて自己の問題として真剣に受け止め、それぞれの深い結びつきを理解していくことが必要である。
- ここでは学ぶことと働くことを通じた人間としての在り方生き方の自覚、日々の学習や進路を主体的に選択する能力の育成、望ましい勤労観・職業観の形成などについて取り上げていく。

この解説が示すように、ホームルーム活動における「学業と進路」は、生徒が主体的に取り組むキャリア教育の実践の場として重要な役割を果たします。また、ホームルーム活動のほかの内容もキャリア教育に深く関連し、生徒会活動や学校行事もキャリア教育として重要な内容を多く包含しています。上の表に示した特別活動及び各活動等の目標をしっかりと押さえた実践をしていくことが、キャリア教育の推進にとっても極めて重要であると言えるでしょう。

「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とする特別活動では、それぞれの内容に着実に取り

組み、今まで以上に学校教育全体で学んだキャリア教育に関する知識を統合し、深化させ、体験的に実践していくことが必要です。とりわけ、高等学校においては、小学校・中学校での活動内容との関連を深めるとともに、各教科・科目や総合的な学習の時間との関連が深まるように工夫し、これまでの特別活動を総括する役割を担うことが必要です。このことが今、キャリア教育実践の推進に向け、特別活動に強く求められているところであり、大きく期待されているところです。

2 高等学校における特別活動の指導内容とキャリア教育 —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

特別活動は、ホームルームを単位とする集団のほかに、ホームルームや学年、学科等の枠を超えた集団などにおいて、その中で互いに理解し合い、高め合い、個人と個人、個人と集団、集団相互が互いに作用しながら、集団活動や体験的な活動を進め、それぞれの生徒が全人的な発達を遂げ、また、所属する集団の改善・向上を図っていくものです。また、特別活動は、将来において個人が社会的な自己実現を図るために必要とされる資質の育成、さらに自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感をもち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度や能力を養うこと、そして、人間としての在り方生き方の自覚と自己を生かす能力を育成することです。

このことは、社会的・職業的自立を目指すキャリア教育と深くかつ直接的に結び付くものです。次に一例として、特別活動の3つの内容と社会的・職業的自立への円滑な移行に必要な「基礎的・汎用的能力」との関連を示します。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する特別活動の指導内容の例

活動／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
ホームルーム活動	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動 男女相互の理解と協力 コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 青年期の悩みや課題とその解決 社会生活における役割の自覚と自己責任 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 学校における多様な集団の生活の向上 進路適性の理解と進路情報の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の意義の理解と参画 学ぶことと働くことの意義の理解 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用 主体的な進路の選択決定と将来設計
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活における規律とよき校風の確立のための活動 望ましい人間関係を深めるための活動 異年齢集団による交流 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の教養や情操の向上のための活動 学校行事への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題の解決を図るための活動 生徒の諸活動についての連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全や美化のための活動 生徒会の計画や運営 ボランティア活動などの社会参画
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> 共に助け合って生きることの喜びの体得 郊外における集団活動を通して、教師と生徒及び生徒相互の人的な触れ合いや信頼関係の大切さの経験 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な行動や規律ある集団行動の体得 責任感や連帯感の涵養 生涯にわたり、文化や芸術に親しむための豊かな情操の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> 集団のきまりや社会生活上のルール、公衆道徳などの体験 前年度の計画の見直しと課題解決のための立案 	<ul style="list-style-type: none"> 勤労の尊さや創造することの喜びの体得 就業体験などの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験 ボランティアなどの社会奉仕の精神を養う体験

3 実践例

《ホームルーム活動（学業と進路） 第2学年》就業体験から得られた情報を共有し、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい勤労観・職業観の形成・確立に資する

ホームルームでの話し合いにより就業体験を振り返ろう！

■ ねらい

- ・ 就業体験後の体験発表会を通じて、進路情報などを共有し、職業への理解を深める。
- ・ 他人の体験との比較や話し合いなどを通じて自分の体験を内在化する。
- ・ 進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい勤労観・職業観の形成・確立に資する。

■ 本実践とキャリア教育

生徒はこれまで、小学校や中学校で体験した職場見学や職場体験活動などを通じて、働くことの意味や勤労の尊さなどについて学習してきました。しかし、より多くの職業や社会の仕組みを知るためには、社会と直接触れ合う啓発的な体験を生徒の発達の段階に応じて設定し、系統的な学びとなるように配慮することが必要です。

生徒は5日間程度の実験体験を通して、日々の学習と職業との関連や仕事をする上での知識や技能、社会人との関わり方などを学びますが、体験後、ホームルーム等において体験したことを発表し合い、情報を共有するとともに、他人の体験との比較などを通じて、体験を客観的に振り返ることが大切です。

本実践は、話し合いなどによって、進路適性や望ましい勤労観・職業観などについて考察することで、将来の社会的・職業的自立に向けた意欲や態度の育成につなげる実践です。

《全体構想》

【事前の活動】

- 就業体験（5日間程度）終了後、日誌を整理し、礼状や体験報告書などの作成を行う。
- ホームルームにおいて体験発表会を行い、全ての生徒が各自3分程度で発表する。
- 発表会では、情報を共有するとともに相互評価を行う。
- 相互評価票の集計を基に、特色ある事例を選出する。（選出に当たっては、選出の基準を明確にしておく）（例：進路への適性や貴重な進路情報が含まれた事例、キャリア発達の要素などを含む成功例・失敗例など）
- ホームルームでの話し合いのための司会進行役の生徒を選出し、入念な打合せを行う。

【本時の活動】

- 選出した事例について話し合い、進路適性や進路情報の活用について考える。
- 様々な体験と「基礎的・汎用的能力」とを関連付け、社会的・職業的自立や社会参画などについて考察する。

【事後の活動】

- 学年発表会を開催する。（体験先の方々や保護者の招聘、ジョブカフェによる講評）
- 本実践での諸活動と「公民科」や「家庭科」での学習を関連付け、労働者としての権利や義務、雇用契約の法的意味、求人情報の獲得方法、仕事と家庭生活の調和の取れたライフスタイルなどについて、使用した教科書や作成したノートを参照させながら、グループディスカッションを行う。
- 自己評価カードの活用と教師の支援などによって体験の内在化を図る。
- 報告集を作成する。報告集のデータベース化などにより、教育財産としての蓄積を図る。

《本時のねらい》

- ・ 相互評価票を基に選出した事例について話し合い、情報の共有化を図る。
- ・ 就業体験から得られた様々な体験と「基礎的・汎用的能力」とを関連付ける。
- ・ 今後の学校生活の充実と、社会的・職業的自立に向けた主体的な態度を育成する。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
導入	1 司会進行役（生徒）からこれまでの活動の流れを聞く。 2 本時のねらいを確認する。	○：配慮事項 ◎：キャリア教育の視点から見て特に重要なこと ☆：評価 ○ 本時のねらいに適應した話し合いになるような事例を選出しておく。
展開	3 選出した事例を紹介し、この事例についてホームルームで話し合う。 ・ 事例に含まれた進路適性或進路情報 ・ 成功例、失敗例、印象的な出来事に含まれたキャリア発達の要素 ・ 望ましい勤労観・職業観の形成・確立など 4 就業体験から得られた体験の数々と「基礎的・汎用的能力」とを関連付ける。 5 学年発表会に向けてホームルーム代表2名の選出を行う。	○ 限られた時間内で活発な話し合いとなるように配慮する。 ◎ 事例と自分の体験とを比較することで、体験を振り返り、体験のもつ意味を考察する。 ◎ 事例と進路適性或進路情報の活用、望ましい勤労観・職業観との関連付けを図る。 ☆ 本時のねらいに適應した意見が出されたか。今後の学校生活への抱負などに言及された話し合いとなったか。
まとめ	6 教師の話聞く。 7 本日の話し合いを振り返る。 ・ 全体についての感想を記入する	○ 話し合いによって得られた成果が、今後の学校生活の充実につながりように配慮する。 ◎☆ 発達の段階に応じた望ましい勤労観・職業観をもち、自己の能力・適性を生かそうとする態度をとれるよう評価する。

《実践のポイント》

- ・ **指導効果を高める工夫**
特色ある事例を選出し、司会進行役の生徒と入念に打ち合わせることによって、活発な意見交換が期待できます。
話し合いにより他者理解を図ることで、ホームルームの雰囲気作りができます。また、話し合いをもとに今後の在り方生き方を考察することで、学習意欲の向上を図ることができます。
- ・ **事後の指導と活動**
体験や話し合いによって気付いた自己の長所や短所、職業適性、将来の可能性や不安などをその後の個別支援（個人面談や進路相談）につなげる機会を設けましょう。

《実践上の留意点》

- ・ 充実した事前・事後学習により体験を深い学びに変えるような工夫が必要です。
- ・ 就業体験に関わる取組を一過性のイベントにしないようにすることが大切です。

《発展的な取組》

- ・ 学年全体の報告集をデータベース化して、図書室等で活用できる環境を整備しましょう。